

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		中学校特別支援学級運営				所管	教育委員会 学務課		
事務事業の概要	行政計画	あり	事業NO.	196	計画事業名	特別支援教育の推進			
	長期総合計画体系	[基本目標] I-2. まちの魅力の創出					事業の開始・終了年度 [事業開始] 昭和25年度 [終了予定] - 年度		
		[小 柱] (2)子どもが、自らたくましく生きられる教育の推進							
		[施策] ①個性を生かす学校教育の充実 [68]							
	根拠法令等	法令(義務)	[法令等名]	学校教育法					
	事業対象	区立中学校特別支援学級							
	事業目的	中学校特別支援学級の円滑な運営を図る。							
	事業内容	特別支援学級の適正な学級編制を行い、学級運営に必要な消耗品・備品等を整備し、適切な教育環境の整備をする。							
委託の有無	一部委託	委託内容	要約筆記委託						
補助金の有無	なし								
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度		
	活動指標	特別支援学級	学級数	7	5	6	6		
		成果指標	特別支援学級在籍生徒数	人	45	38	39	40	
	決算額 (単位:千円)				1,096	1,547	1,364		
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			2,700	3,332	2,983		
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			1,069	1,548	1,364		
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			28	0	0		
		総経費			3,797	4,880	4,347		
	財源項目 (単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	0		
		その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0		
一般財源(区負担額)			3,797	4,880	4,347				
前年度から改善した事項	教員分の調査研究旅費について、庶務課の旅費に統合したことにより、効率的な執行が可能となった。								
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	特別な支援の必要な生徒に個々にあった適切な教育的支援が必要である。						
	効率性	3	知的障害特別支援学級の運営に当たり必要最小限の消耗品等の環境整備をした。						
	手段の適切性	3	法令等の定めにより、行政が主体となる必要がある。						
	目的達成度	3	特別支援学級の運営に当たり、特別な支援の必要な生徒に個々にあった適切な教育的支援を行った。						
[評価の理由](区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了		
様々な障害のある生徒に適切な教育支援を行う特別支援学級が必要なため、引続き維持していく。						維持			